



國學院大學 特集

神道文化学部の就職力!



もっと日本を。もっと世界へ。



國學院大學

学部長メッセージ



西岡 和彦教授
神道文化学部長

神道文化学部をめざす
皆さんへ



神道文化学部をめざす皆さんへ、本学部の内容についてご説明いたします。

本学部は、平成14年(2002)4月に文学部から独立し、今年度で19年目を迎えます。学部としては若いほうですが、國學院大學の前身が皇典講究所であり、さらにその前身が神道事務局とその生徒寮であることから、まさしく本学の根幹を継承する学部といえましょう。

本学部は、1学部1学科(神道文化学科)2コース(神道文化コース、宗教文化コース)からなります。コースはあくまで目安であり、入学後は学生が主体的に受講科目を選択することになります。したがって、神職資格の取得をめざす方は、どのコースからでも取得することができます。

神道文化コースは、神道文化を専門的に学び研究するコースで、宗教文化コースは、宗教文化を専門的に学び研究するコースですが、本学部の学生は皆さんいちょうに神道学と宗教学の全般を学ぶことになっています。

本学は昼夜開講制を実施しています。そのため1時限から7時限までの時間帯にある科目を受講することができます。本学部には、唯一フレックスA(夜間主)とフレックスB(昼間主)があります。そのため、2年生まではフレックスAの学生は、6・7時限にある特定の科目を受講しなければならない、というしほりがあります。また、フレックスBの学生は、1～4時限にある特定の科目を受講しなければならない、というしほりがあります。なお、5時限は共通時間帯で、特定科目といえども、フレックスAとフレックスBの学生がともに受講できるようになっています。そうした点を除けば、学生は1～7時限の科目を自由に選択することができます。

なお、勤労学生のためにフレックスA奨学金制度があります。これは、平日は5～7時限、土曜日は1～7時限の時間帯しか受講科目の単位取得を認めない制度ですが、その分、授業料の減免に見合った奨学金が出されます。ただし、成績不良の場合、たとえ勤労学生といえども3年生以降打ち切られることがありますので、ご注意ください。

カリキュラムの特長は、1年生から少人数教育を実施し、学

生と学生、学生と教員とのそれぞれの距離感を無くすように心がけているところです。1年生は前期に神道文化基礎演習で、大学生としての基礎学力を身につけます。2年生は後期に神道文化演習で、3・4年生で行う基幹演習に備えます。基幹演習は神道学、神道史、宗教学の3つの分野からなり、そのなかから指導教員を1名選択します。3年生は中間リポートを作成し、4年生は卒業リポートを作成します。演習では、各自で調査研究した成果を、レジュメを作成して口頭発表し、受講生や指導教員から意見や指導を受けます。

神職資格に必要な祭式や衣紋、そして雅楽の授業も充実しています。女子学生の増加にともない、祭式の女性教員や女性補助員も配置していますので、ご安心ください。

こうした4年間のカリキュラムを通じて、より研究を深めたい方は、大学院へ進学します。皆さんのなかから、研究者や教育者をめざす方がひとりでも多く出ることを希望します。

卒業後の進路は、多くの学生が神社界への奉職を希望しています。最近では首都圏の神社を希望する学生が増加し、地方の有名大社を希望する学生が減少しています。伊勢神宮や出雲大社をはじめ地方の有名な大社には、母校の先輩方(院友神職)が多くご奉仕なさっています。そうした大社に奉職できるよう志を高く持って、頑張ってください。

また、一般企業や公務員へ就職する学生も増加してきました。男女ともにいろいろな方面へ就職しています。なお、卒業後の進路は、4年生になってから決めるものではなく、入学したら早い段階で進路を決め、その準備を行うことも学生生活のひとつです。

以上、縷々説明しましたが、入学後不安が生じたら、遠慮することなく教職員や先輩に相談してください。教員にはそうした時間(オフィスアワー)を設けていますし、若木タワー17階には、修学相談室がありますので、気軽にたずねてください。コロナ禍の終熄が待ち遠しくなりましたが、決して焦ることなく、まずは何よりも健康に留意して、楽しい学生生活が送られるようしっかりと準備しておいてください。

神道文化学部から一般企業へ



國本 果穂さん
神道文化学部 4年

東証一部上場企業内定

神道文化学部生であることが、大きな
アピールポイントとなりました



どの大学を受験しようかと調べていた時に、パンフレットで神道文化学部のことを知りました。観月祭や成人加冠式の様子に、とても心が惹かれました。

「この学部では、他ではできないような体験が出来るかもしれない…」

そんな思いが頻りに湧きました。それと共に、元々興味があった日本の神話、日本の文化について、本格的に学びたいという思いも一層強まりました。そんな訳で、私は神道文化学部への入学を決めたのです。



入学後は、新鮮な学びに、目を瞠る日々でした。神話から始まり、今に続く神道の世界は、入学前に漠然と思っていたよりも、はるかに広く深いものでした。古来の精神文化を系統的に学ぶことで、私自身の価値観や物事の捉え方も、大きく変化しました。自分の中に、日本人としての心の柱を、しっかりと打ち立てることができたように思います。



3年次後半から、就職活動が本格化しました。私は、早くから志望先を一般企業に絞って準備を進めていました。ところが、あにいくのコロナ禍…。志望する企業のほとんどが、説明会・面接を延期するか、あるいはキャンセルしました。全く予想もしない事態に茫然自失し、しばしば前途を悲観することもありました。



けれども、この辛い期間こそが、自分の持つ「強み」とは何かについて、改めて考え直す貴重な時間ともなりました。私の場合は、それはやはり、この学部で得た「ユニークな学びと経験」にあると思いついたのでした。

例年とは全く異なるスケジュール、慣れないオンライン形式に不安はありましたが、思いきって憧れの企業にトライしました。

面接では、神道文化学部というあまり馴染みのない学部名に、こんな質問を受けました。

「何を学ぶところなの？」

私は、この学部ならではの神道の学びに加え、観月祭や成人加冠式を巡って、エピソードを交えての苦心談・体験談を披露しました。面接官の方々は、少なからぬ興味を示してくださいました。まさにこの学部生であることが、私の大きなアピールポイントとなったのです。まことに幸いなことに、第一志望の大手企業から、内定をいただくことが出来ました。



思えば、神道文化学部の4年間で、他では得ることのできない知識と経験を獲得することができました。学部の学びと経験は、これから社会人として働く上で、必ず私の大切な宝物となるものと信じています。



2年生の声



福田 弘毅さん
神道文化学部 2年

神道から学ぶ
日本人の精神



私は、高校生の時に読んだ小林秀雄の本居宣長に関する著作に深い感銘を受け、古代の日本人が有していた精神性というものを学びたいと思い、神道文化学部を志望致しました。文献から学び取れるものには限界があるということもあり、日本人の精神文化に直接触れることが何よりも大切であるという思いから、目下神職資格の取得も目指しております。

神道文化学部では、講義以外にも様々な学びの機会に巡り合うことができます。なかでも毎年10月に行われている観月祭は、日本古来の伝統文化を肌で感じ取ることができる貴重な行事です。私は、雅楽サークル・青葉雅楽会の一員として、2年連続で横笛を担当致しました。コロナ禍により様々な学校行事が自粛となるなか、多くの方の御尽力により、オンライン配信という形で令和2年度も無事観月祭を齎行することができました。疫病の蔓延に加えて自然災害が頻発する現下の状況だからこそ、改めて神道の存在意義が問われていると感じております。そのような時に神道文化学部にて在籍し、光ある安らかな世を願う観月祭にご奉仕することができたことを心から嬉しく思います。コロナ禍が収束し、学友と直接会って学び合い、高め合う日常が一日も早く戻ってくることを祈念してやみません。



私は一般家庭出身ということもあり、将来の進路については決めかねております。ただ、一宗教者として自己研鑽を積み、「神道とは何か」、「宗教とは何か」という問いを常に抱きながら、現代社会における神道の意義というものを考え続けていきたいと思っております。そして、神道文化学部における様々な学びを通じて、神道に関する知識や理解を深めるとともに、大学生活を通して得られる様々な体験から、人間的にも成長し、惟神の道というものを後世に伝えていくことができるような人間になれるよう努力して参りたいと思っております。



2年生の声



折原 祥平さん
神道文化学部 2年

日本の伝統文化を
伝えたい



私は日本の伝統文化を学び、発信したいという思いから神道文化学部へ入学しました。

初めて神道文化学部を知ったのは高校2年生の時でした。歴史が好きだった私に当時の担任の先生が勧めてくださったのです。大学へ進むにあたって伝統文化に関心を抱いていた私は「この学部だったら日本の文化について学べて、将来それを伝える仕事ができるのではないかと」思い、入学を決めました。

感染症の影響によって1年間遠隔での学びを余儀なくされましたが、過ごしてきた2年間を振り返ってみると、高校生の時に想像していた学生生活とは比べものにならないほど充実していると感じています。

神道文化学部は世界でただ一つの神道を専門とした学部ということもあり、第一線で活躍されている先生方から神道の精神などを学ぶことができます。先生方もご自身の研究をもとに講義を行なっているので最先端の学びができ、学んでいくうちに神道の世界観へと引き込まれていきました。

その他の学生生活でも様々な経験が得られました。平安朝の月見や成人の儀を模した観月祭や成人加冠式は、雅やかな楽や装束を全身で触れることのできる他にはない機会です。私は大学に入ってから雅楽を始めましたが、これらの行事に1年生の時から参加してお



り、観月祭では1年次、2年次ともに箏の音頭を、成人加冠式では1年次に歌方の音頭をそれぞれ任せていただきました。この音頭や句頭といった責任のある大役をやりきった時の喜びと興奮は忘れられません。雅楽を通じて出会った仲間も多く、共に「もっと上手になりたい!」という思いに駆られて練習に励んでいます。

私は一般家庭の出身ですが、卒業後は様々な可能性を視野に入れながら神道を学び続ける者として神社へ奉職するなど神道と関わっていきたくと考えています。当初の「日本の伝統を次世代に伝えたい」という思いのもと、これまで経験したこと、これから学んでいくことを大切にしながら理想とする将来像になれるように今後も動してみたいと思います。



4年生のメッセージ



宮川 周子さん
神道文化学部 4年

楽しかったことも、
つらかったことも、
そのすべてが、
自分の糧となりました。



小さい頃から、神社を身近に感じて育ちました。「自分も神職を目指そう…」そう思って、神道文化学部を志願しました。

高校まで、実家が社家という人に会ったことはありませんでした。ところがこの学部には、同じ境遇で育った人たちがたくさん在籍しています。共通の悩みについて、将来について、さまざまな思いを分かち合うことができました。「自分は決してひとりではない、仲間が全国にいる…」そんな思いに、いつも励まされてきました。

もちろん学部生は、社家出身者ばかりではありません。神社について、神道の歴史について、マニアックな研究心を抱いている彼ら・彼女らとも、談論風発の楽しい時間を共有することができました。



この学部に入學していちばん良かったこと。それは、四季折々の学部行事に参加できたことです。

2年生の時には、本学恒例の観月祭で、右舞の「登殿楽」を舞わせていただきました。終演後の晴れやかな達成感、今も忘れることができません。あの時の私は、実に数多くの方々から支えていただきました。そんなことを思うと、おのづから感謝の念が込み上げてきます。

同じく2年次の成人加冠式も、私にとって大切な思



い出です。私は、その年の成人女子代表に選ばれました。正服を着装し、答辞を読ませていただきました。これは誰しもが経験できることではありません。

「この学部で懸命に学び、大学行事やサークル活動に動んだ、そのご褒美をいただいたのだ…」そんな思いが、その後の学生生活の秘めた自信に繋がりました。

4年次を迎え、予想もしなかったコロナ禍に遭いました。大学生活最後の大切な1年間、自粛とオンライン学修を余儀なくされたのです。けれども、卒業を前にした今、そうした辛い経験も含めて、やはり自分にとってかけがえのない4年間だったと実感しています。楽しかったことも、つらかったことも、そのすべてが、自分の糧となりました。必ずや将来に生きてくるものと思っています。



この学部に入って、神道人としての生き方を学び、素晴らしい仲間たちと出会うことができました。憧れの先輩、一緒に切磋琢磨してきた同級生、私についてきてくれた後輩たち…。こうした方々と出会い、共に歩んだことが、私の何よりの誇りです。

志願者の皆さん、ぜひこの「世界でただひとつの学部」で、様々な経験を積んでください。



4年生のメッセージ



今橋 晶子さん
神道文化学部 4年

前向きに
生きること



私は地方神社の社家の出身です。神職資格取得を目指して、神道文化学部に入學しました。

学部では、資格課程の履修はもちろん、課外活動で自分の能力を高めることができました。私は雅楽サークル・青葉雅楽会で、笙の技術を習得しました。まったくの未経験者でしたが、数多くの方々のサポートをいただきました。おかげさまで、3年次にはソロで奏楽奉仕ができるまでの技量に達することができたのです。



本学ならではの大学行事・観月祭に参加できたことも、忘れがたい思い出です。観月祭では、奏楽だけでなく、広報用ポスターの作成も担当しました。思えば、この学部でなければ得られない貴重な経験を、心ゆくまで満喫することができたと思います。



痛恨事は、4年次に直面したコロナ禍です。自粛生活で、淋しく籠る日々…。学友と会うことも叶わず、サークルの仲間たちと楽を奏することもできなくなりました。淋しさに心を痛める日々が続きました。

そんな時、何よりの力になったのは、コロナ禍前、学友たちと共に切磋琢磨した日々の記憶でした。全力投球した過去の思い出を顧みることが、「前向きに生きることの大切さ」を、私に気付かせてくれたのです。



そんなコロナ禍も含め、大学時代の4年間、実にさまざまな経験を積むことが出来ました。卒業後は、学生時代に磨き上げた自分なりの武器を、ご奉仕する神社や地域社会の中で、しっかりと活かしていきたいものと願っています。

志願者の皆さん、神道文化学部は、かけがえのない学びと経験の場です。入学したら、学部ならではのさまざまなチャレンジに、ぜひ進んでトライしましょう。



イラストー今橋 晶子

新任教員のメッセージ



平藤 喜久子教授
令和三年度着任



神話を学ぼう！



本年4月から、神道文化学部にて教員として着任させていただくことになりました。

わたしは「神話」をいろいろな角度から研究する「神話学」を専門としています。「神話」と聞くと、「古い話だから難しそうだなあ」とか「ありえない話ばかり」といったイメージを持たれているかもしれません。神話はたしかに古い話ばかり。でもそれは人間がなによりも必要とした物語だったからこそでしょう。神話を知ることは、人間を知ること、ということができるかもしれません。



日本では8世紀に『古事記』や『日本書紀』という文献のなかに神話が伝えられました。神々の奇想天外な「ありえない話」が多くありますが、そのなかにも共感できる部分を発見することもあります。また、なぜこんな話なのだろうか、と考えることは、古代の日本人や人間そのものについて知ることにつながります。他の地域の神話と似た話があれば、文化の交流の可能性や人間の心を考える手がかりにもなります。



このような「神話学」という学問を専門にしている研究者は残念ながらあまり多くはいません。國學院大學神道文化学部は数少ない神話学を学ぶ場といえます。このたび新たに神道文化学部の教員となり、神話



学の立場から皆さんと一緒に神話を読み解き、新たな解釈の可能性を考えていけることになり、とてもうれしく思っています。



これまで「神話なんて一度も読んだことがない」、「古文が苦手」、という方もご心配なく。神話には「こう読まなければいけない」ということはあまりありません。若い皆さんのフレッシュな感性で、神話をしっかりと見つめ直しながら一緒に学んで行きましょう！

神道文化学部独自の各種講座

神道文化学部では、就職・奉職、および就職・奉職の「その先」を見据え、素養とスキルを高めるための各種講座を開催しています。(無料)



女子学生のための
就職セミナー



マナー講座



書道講座



和歌講座



衣紋講座



田んぼ学校



御幣講座

オープンキャンパス
(渋谷キャンパス)

8月21日(土)・22日(日) / 9月12日(日) お問い合わせ：入学課 電話 03-5466-0141